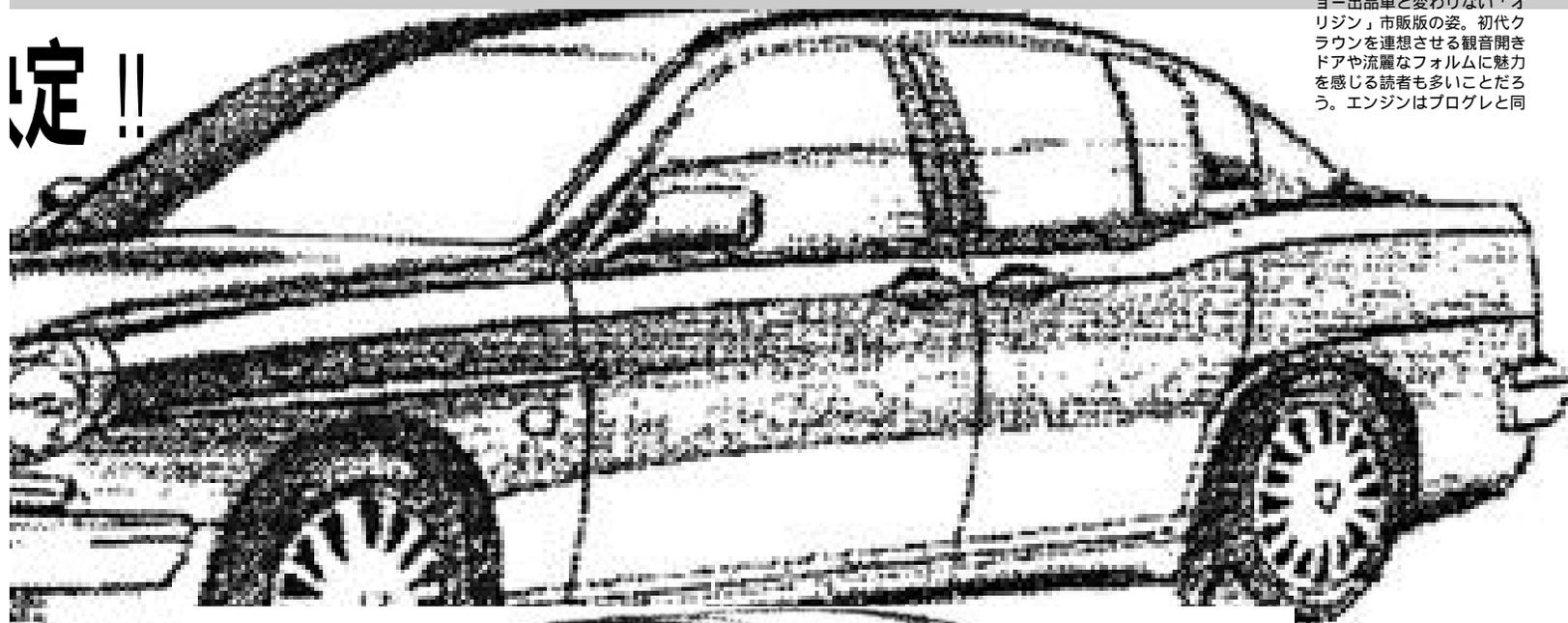
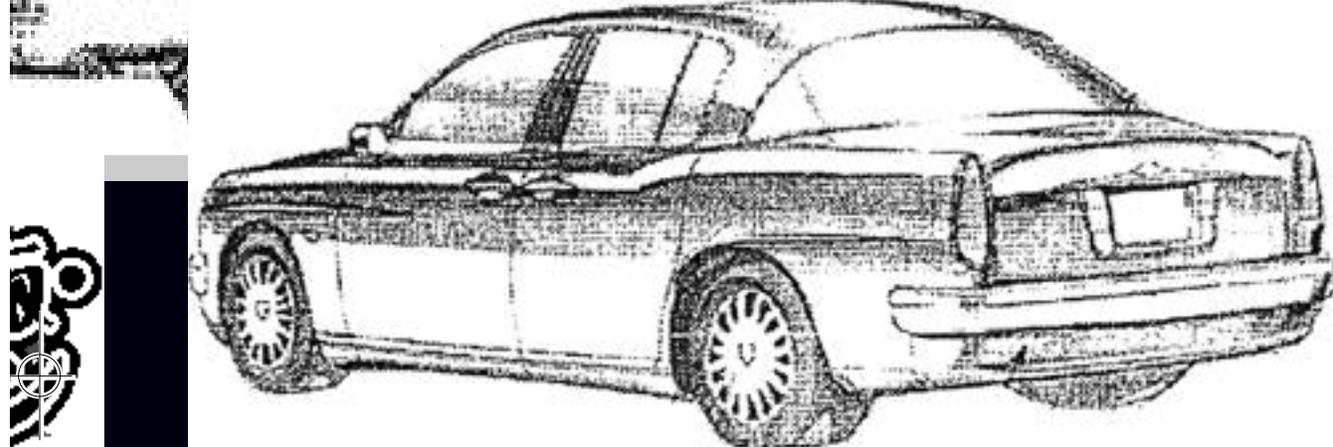


定!!



細部を除けば、基本的にはシヨ出品車と変わらない「オリジン」市販版の姿。初代クラウンを連想させる観音開きドアや流麗なフォルムに魅力を感じる読者も多いことだろう。エンジンはプログレと同



メッキスチールバンパーやテールフィン、左右まで回り込んだリアウインドウなど、古きよき自動車の雰囲気うまうま再現されている。「完全水研」手法により、深みのある塗装面が実現するの興味深いボ



台を



逃すな!

ラ

イバル他社に先がけて生産累計1億台の偉業を成し遂げたトヨタ。オリジンはその記念事業の一環として、初代クラウンをモチーフにした限定生産車だ。すでに99年の東毛で披露されたため、その独特なフォルムやユニークな観音開きドアが記憶に残っている人も多いだろう。

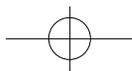
既報のとおり、ベースにはプログレが起用される。そのため、スリサイズも4560mm x 1745mm x 145mmとかなりコンパクトだ。搭載エンジンはおなじみの2JZ G E型3直6・VVT i(215ps/30・0 m)で、ナビ協調シフトを組み込んだ電子制御4速ATが組み合わされる。また、サスペンションには4輪ダブルウィッシュボーン式が踏襲される。

では、オリジンだけの特徴はどこにあるのか? ひとつはボディパネルの塗装だ。トヨタ車ではセンチュリーだけに採用されている「完全水研」なる手法が用いられ、滑らかで深みのある塗装面が実現する。具体的な手法内容は、2回目の最終上塗り前に、1回目の上塗りが乾燥した時点で水研(サンディング)が行われるというもの。作業はじつさにセンチュリーの水研を手がけている作業者の手によって行われるようだ。ちなみに、ボディカラーはブラック、フルマイカ、ライトグレイツシユブルの3色で、全色とも内装はアイボリーでコーディネートされる。

独特の曲面が美しい外板パネルもオリジンの見逃せない特徴だ。1度でプレスできない複雑なパネルは、小分けにプレスされたものが溶接で組み上げられる。2個のパネルから

新製品情報

オートボックスセブンはプライベートブランド商品として「カージョキンスプレー」3種を7月10日に発売した。従来の加熱蒸散型「カージョキン」に比べ、スプレー型にすることで簡単に使えるようになったのがポイントだ。



STY SCOOOP 13

トヨタ・オリジン、7月28日デビュー決定!!

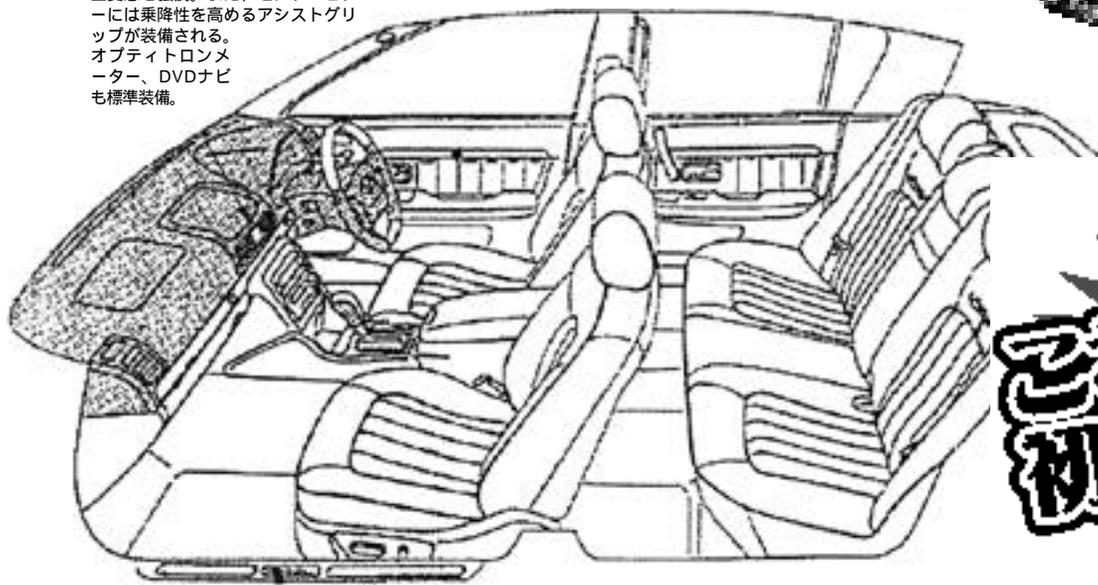


構成されるフロントフェンダーや5つのパーツから成り立つリアクォーターパネルがおもな該当部位だ。さらに、これらのパネルを組み立てるのもクラフトマンの役割で、量産ラインで活躍しているロボットの出番はほとんどない。

このほか、外観ではハフ研磨仕上げの鉄メッキバンパーやダイヤモンド切削加工アルミホイールなど、きらびやかなアイテムが目を引き、もちろん、観音開きドアを採用しているとはいえず、トヨタの安全ボディ基準「GOA」にも適合している。スタイル重視のクルマに変わりはなく、このへんはWILL Viは、Viよりも良心的(WILL Viは「GOA」基準に適合していない)。

いっぽうの内装においても、最上の警戒が味わえる演出がたつぷりと盛り込まれる。本革シートや本木目パネルは言うまでもなく、ベースのプロダクトに準じた高級装備も数多く採用される。この際、運転は人に任せて、後席で優雅にくつろぐのがオリジンの正しい楽しみ方なのかもしれない。

本革シートやツートンカラーのインパネはアイボリーが基調色となり、上質感を強調。また、センターピラーには乗降性を高めるアシストグリップが装備される。オーディオ、DVDナビも標準装備。



これも復刻版。初代クラウン

手作り

オーパ、オリジンの次はNCSVか？



99年の東モに出品されたコンセプトカーが立て続けに市販されてきたことは、いまさら説明するまでもないだろう。残されたコンセプトカーに関しては、レクサス・スポーツクーペが次期ソアラとしてデビューすることは本誌でもお伝えしてきたとおりだ。

そして、スクープ班では新情報を入手した。それによると、あのクーペワゴン「NCSV」の市販化も決定したという。NCSVのスタイリングに惚れ込んだ役員の一言で計画が決まり、市販版の開発が立ち上がった模様。当然、スクープ班では今後もチェックしていくので、続報に期待されたし!

れない。生産は関東自動車工業・東富士工場で行われ、1000台のみが限定販売される。現時点では販売方法は未定だが、トヨタ店を中心に全チャネルで取り扱われることが決まっている。



東モ出品車

■オリジンの主要スペック(諸乗部予想)

	オリジン	プログレ NCS300	初代クラウンRS40
全長 (mm)	4560	4500	4285
全幅 (mm)	1745	1700	1680
全高 (mm)	1455	1435	1525
ホイールベース (mm)	2780	2780	2530
トレッド・前 (mm)	1475	1475	1336
トレッド・後 (mm)	1460	1460	1380
室内長 (mm)	1950	1950	—
室内幅 (mm)	1465	1465	—
室内高 (mm)	1185	1165	—
最低地上高 (mm)	160	160	200
乗車定員 (名)	5	5	6
車両重量 (kg)	1560	1480	1240
最小回転半径 (m)	5.1	5.1	5.6
60km/h定地走行燃費 (km/l)	16.8	16.8	—
タイヤサイズ	195/65R15	195/65R15	7.00-13 4PR

新製品情報

オートボックスでは平成10年よりJBC商品の国内独占販売を行っており、7月21日より新製品を順次発売。